

中越地震被災地に思う

佐々木 正

里山の紫陽花が一段と美しい季節になって参りました。会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のことを心よりお慶び申し上げます。皆様の平素から地域に根ざした活動や調査・研究に心から敬意を表したいと思います。

今年こそ水害や地震災害等の無い、全力で災害復旧と復興に取り組める平穏な年であってほしいと祈念せずにはおれません。この3月に県小出地域振興局を最後に退職し、顧みますと昭和45年4月県に奉職以来35年の歳月がすばやく過ぎ去った感じがします。

会員の皆様から公私にわたるご協力、ご配慮に心より感謝申し上げます。

さて、平成16年はご承知のように地球規模での災害多発年であったほか、地球環境が発生するエネルギーの猛威を改めて再認させられ、これまで営々と築き上げてきた現代の社会基盤が一瞬のうちに破壊・消滅する事態が起きました。このような想像を絶することに遭っても自然の営みの中で許される行為には限度があり自然の持つ地域資源との調和の必要性が一層認識され、これからの人間社会と自然環境との在り方を再考させるに十分過ぎる事象でした。本県の中越地方を集中的に次々と襲い甚大な被害を出した7.13水害、10.23中越地震、19年ぶりの豪雪や、今年3月20日の福岡西方沖、そして現在、台風の発生個数も昨年より少し多いようですが、今後の日本列島の異常気象の続発を予感させるのでしょうか。

とくに本県のような場合では積雪寒冷地帯、脆弱な地質の中山間地、大河川の氾濫の危険性を伴った田園地帯を先人たちの献身的な努力と近年の公共事業投資によって、利便性に富む都市環境や豊かな自然環境を抱える地域に生まれ変わってきましたが、自然の猛威の前においては残念ながら安全な地域は皆無に等しい。自然災害で被る壊滅的ダメージを回避、軽減する方策をどのように構築し実現しうるか。進化する科学技術のより精度の高い予測システムとそれを補完するものとして地球環境に育まれてきた知恵、経験を生かすことが大切であります。

震度7を記録した川口町和南津地区は「激震ゾーン」でもありましたが、公共交通機関が集中している結果、新潟圏域は関東圏域と人的、物流的な長期間断絶が余儀なくされ大きな経済的損失を被りました。危険回避のため代替路線や、災害に強い道路ネットワークの構築が以前から叫ばれておりますが、未整備な現実が露呈しました。これからは地域固有な経済、文化、生活に学び、そして自然環境、地形・地質構造的要素を踏まえた「道」ネットワークでなければならないと考えます。

国、地方の財政事情の逼迫から効率化、時間的評価など便益が経済的観点で行われその合理的妥当性は異論のないところではありますが、平成大合併、行政改革の効率化等で一極集中を是とする感のある現在、本県の施策である「緑の百年物語」のような比較的時間、財政的な観点にとらわれない時代の潮流に沿った柔軟な社会資本整備の視点が必要でないでしょうか。

*ライト工業(株)